

# 会 議 録

## 1 会議名

令和6年度第3回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【自主的な審議】

- ・直江津まちづくり構想について（公開）
- ・委員間での意見交換（公開）

## 3 開催日時

令和6年8月20日（火）午後6時30分から午後8時05分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

## 5 傍聴人の数

2人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員： 磯田一裕（会長）、田中美佳（副会長）、古澤悦雄（副会長）、  
青山藏吉、今川芳夫、鴨井辰典、関谷照子、田中 実、保坂邦之、  
増田和昭（欠席者8名）
- ・魅力創造課： 渡来課長、藤村副課長、市村係長、井部主任
- ・事 務 局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長

## 8 発言の内容

### 【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

本日は、自主的審議事項に関連して説明いただく担当課として、魅力創造課が来られている。

### 【磯田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：関谷委員、田中美佳副会長に依頼

議題【自主的な審議】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

前回の協議会で、直江津まちづくり構想を話し合っていくにあたり、上越市通年観光計画について、現在の進捗や具体的な事業の内容などを伺いたいとの意見があった。そこで、本日は担当課である、魅力創造課から説明をいただく。

【磯田会長】

それでは、魅力創造課へ説明を求める。

【魅力創造課：渡来課長】

- ・挨拶

今年からいよいよ通年観光計画における直江津地区の検討がスタートするというところで、説明をさせていただきます。

【魅力創造課：井部主任】

- ・資料No.1 「上越市通年観光計画概要」に基づき説明

【磯田会長】

本日は、この後に委員間での意見交換もあるので、今聞いた話も含めてそちらのほうで議論する場面もあろうかと思う。質問は端的に行っていただいて、7時ぐらいをめぐりに意見交換は終了したいと思うのでお願いしたい。

今ほどの説明に対し、質疑等はあるか。

【増田委員】

船見公園と屋台会館で社会実験をするという説明があったが、具体的な社会実験の中身や目的、どのようなことを検証するのか、社会実験が成功したときはどうするのか、失敗したときはどうするのか、成功するという前提のもとに話が進んでいるようだが、失敗は想定されているのか。

もう一つは、この社会実験の中に、住民の皆さんの意見や私たち地域協議会の意見をどのように反映してもらえるのかお聞きしたい。

【魅力創造課：井部主任】

まず、具体的に何をするのかというところをお話しさせていただきます。

資料1 1 ページ、濃い青で書いてある部分が具体的な業務内容となっており、一番分

かりやすいところでは、(1) イベントの開催及び飲食・物販等の出店による賑わい創出というところになる。

具体的な内容として、来場者500人以上の規模のイベントを、年間を通して6回実施するほか、飲食・物販等の出店ということで、この場所でいつでも飲食店やキッチンカー、商店街の小売店等が出店できる環境を作っていきたいと思っている。

また、地元の方や地域の方、飲食店などをやっている方が、気軽に出店しやすい仕組みを作っていきたいと考えており、オンライン上で申込みができるようなシステムについても、同時に検証していきたいと考えている。

こうしたイベントや地域からの物販などを行って、この場所を使った事業が成立するのかというところを検証していきたいということが一つある。そして、出店した方が儲けることができるのか。また、この場所を使った事業が成立するのかを検証していきたいと思っている。

このことから、社会実験委託業務の成果品として、この場所を使った事業が成立するかについて、環境整備の提案をもらいたいと思っている。

それから、今お話したようなイベントや物販を行いながら、直江津地域を一体的にエリアマネジメントする団体についても検証していきたいということがあるので、マネジメントする団体がどういったメンバーになるといいのかというところの理想像、体系図のようなものも、この社会実験を終えるときにはまとめたいと考えている。

また、地域協議会の皆さんや地域の方からの意見を拾えるのかというご質問について、この検証は業務委託で行っていくが、委託業者も、人と人とのつながりや、業者間のつながり等を大事にしていきたいということで、地域の皆さんと意見交換を行う場なども設けられるのではないかと考えている。

具体的に、いつどんな形で意見交換などを行えるかというところはまだ詰まりきっていないが、エリアマネジメントを担うまちづくり組織の立ち上げや、持続可能な仕組みづくりについては、地域の皆さんとも意見交換ができるのではないかと考えている。

#### 【魅力創造課：藤村副課長】

補足させていただく。

成功と失敗に関してのご質問もあったかと思う。何をもって成功とするかに関しては、この業務自体がこの場所に新たな賑わいを作っていたり、うみがたりに来た方が、更に足を伸ばして、滞在時間を延ばしていくといったところが見えてくるのが、一つの成

功のイメージではないかと思う。

あとは、収益を得ながらイベントや出店をしていただける仕組みづくりのようなことを狙っていて、その後、その収益をいかした新たな自立的な組織づくりを目指していきたいと考えているので、どういう形で組織が作っていただけるのかというところが見えてくると、成功になってくるのではないかと我々は思っている。

そういった意味で、失敗をどのように捉えるかについては、やってみた結果うまくいかなかったとしても、こういった方面に情報発信をすれば、どういう人が来るのか、どれぐらいの人が来るのか、どこから来るのかなど、イベント等の事業を実施することで得られたデータは、仮に、今私が成功として定義した部分に関して思うような成果が出なかったとしても、必ず次につながるものになるのではないかと思っている。

また、賑わい創出と、まちづくり組織の部分に関しても、思うような成果が出なかったときには、今の時点で答えは持っていないが、しっかりとその要因を分析して次に進めていきたいと考えている。

#### 【古澤副会長】

うみまちアートが来週から始まるが、今回のプログラムを見てみると、非常に親しみやすいものになっている。それはなぜかという、町内会、PTA等、いろいろな方々の要望を聞きながら構築してきたためである。プログラムを見てもらえば分かると思うが、親しみやすいものになってきているし、高齢者が見ても身近に感じるような部分もある。そういった意味で、業者に任せてアンケートを取るのではなく、行政も入り込んで皆さんがどうやったら楽しめるかといったものを構築していただければと思う。

#### 【増田委員】

関連して、民間の業者が、この社会実験に参加する場合や、社会実験が終わった後、そこで事業を実施する場合、また、まちづくり組織に関しても同様だが、立ち上げ時期はある程度資金が必要なので、立ち上げを支援する補助金、助成金的なものを是非考えてほしい。地域独自の予算事業を使えばよいといった話ではなく、この事業のためのものを考えてほしいというのが一つ。

もう一つは、いろいろな整備をする予定があるが、整備の計画が固まった段階で、是非私たちにも示していただいて、住民の意見を聞いてほしいと思う。

三つ目は、イベントを年6回実施すると説明があったが、通年観光と言いながら、結局はイベント中心になっているのではないかという疑問の払拭である。というのは、観

光の基本的考え方は、そこの地域に住んでいる人たちに、おもてなしの気持ちを持ってもらい、来た人たちに親切に接して、直江津はよいところだという気持ちを持って帰ってもらうということだと思うが、そういった施策がこの中には全然入っていない。そこが観光の基本なので、そこをしっかりと押さえた上でやっていただきたいという要望である。

**【魅力創造課：藤村副課長】**

先ほどの親しみやすい取組ということも踏まえて是非進めていきたいと思う。

今回、賑わい創出をテーマとしてやっていこうと思ったときには、今はまだ町に関心がない人でも、ちょっと面白そうだな、行ってみたいと思ってもらい、そこから町のことを知って、より深く関わっていききたいと思うような人を増やしていきたいと思っているので、親しみやすい取組というところはやっていきたいと思っている。

今、増田委員からご質問があった、立ち上げのときの助成金等についてご検討いただきたいという部分に関しては、今の時点でこういった形ができるかということをお伝えすることはできないが、例えば、他の自治体で、そういったまちづくり組織を立ち上げるときに、行政が何かしらの支援をしている例もあるので、参考にしながら検討していきたいと思っている。

通年観光と言いながら、イベントに頼っているような形に見えるということについては、今回、直江津地域での取組を考えるときに、一番特徴として捉えたところは、うみがたりに年間を通じてたくさんの方が既に来ているということである。

また、無印良品等にも人が来ているので、比較的ほかの地域と比べると、一年を通じて一定のお客様が来ている地域ではないかと思っている。その方々に、さらに滞在していただいて、お金を落としていただく等の形につなげていけないのかということ考えたときに、遠くに足を伸ばすというところもちろんあるが、一番近い屋台会館に着目をして、行ったり来たりの往復だけではなく、もともと来ようと思っていた場所ではないが、ちょっと足を伸ばすきっかけづくりのようなどころから入っていけないか。そういったことから、今回の社会実験では、物産や飲食のお店の方がいつでも出店できるような準備もする予定である。

そして、大きなイベントは、この場所を知っていただく、また、関わっていただくきっかけになっていけばいいと考えている。そういう意味では、うみがたりに来るお客さんが、イベントでも、イベント以外でもいいが、この場所に新たに滞在していただける

ようにしていきたいという考えから、今回このような形を組ませていただいたというところでご理解いただきたい。

**【保坂委員】**

二点お聞きしたい。

今ほどうみがたりに来られたお客様からイベントに来てもらうということだったが、現在屋台会館のところでイベントが年に数回行われている。そのときに来ていただいているお客様は、うみがたりのお客様ではなくて、市内のお客様である。外からうみがたりに来たお客様を呼ぶのか、市内の方により広く知っていただくためにやるのか。そのところを履き違えてしまうと、なぜ通年観光をやるのか、担い手不足による歴史・文化の伝承の危機という、大きな問題を抱えているが、そこと結びつかなくなる。担い手不足の部分は後付けなのかもしれないが、そこと結びつけるにはどうしたらいいか、もう少し突っ込んで考えていただければと思う。

それと、船見公園の件だが、こちらには三八朝市があるが、そこは市としてどのように考えているのか。これは、直江津の中でも問題になっているが、出店される皆さんが高齢化してきている。年を取ってくれば出店できなくなるので、そのところもどのように考えているのか。それも頭の中に入れておいていただきたいと思う。

**【魅力創造課：藤村副課長】**

おっしゃるとおり、既存のイベントに関しては、うみがたりに来た人がメインではないと思っている。一方、うみがたりに来た人が寄っていくということもあると思うので、そこは両睨みでやっていきたいと思っている。

通年観光という意味でいうと、先ほど申したとおり、イベントが主ではなく、ここで常時お店を出せるような状態を作っていくということが、この取組の重要なポイントになっている。私どもとすると、特に直江津地域の飲食や、何か物を売っていらっしゃる方々が、この場所で、例えば毎週末や、平日もやっていただけるようであれば、平日も含めてお店を出していただけるような状態を作るところを目指している。

先に通年観光の話があって、担い手不足の部分は後付けではないかというお話については、そんなことはなくて、私どもが今捉えているのは、ボランティア等で歴史・文化を守っていくというだけではなく、商売やお金を稼ぐような形の中で、歴史や文化を絡めて生業が生まれてほしいという考えがあった。そういった意味で、商売、生業に結びつけやすい場所として、例えば、人が集まりやすい場所を実験的に作り、そこに、

地域の食材を扱う飲食店の方から出ていただいたり、地域の資源や歴史、文化といったものを生業としてつなげていくような方々を少しでも増やしていけないかと考えた。それが観光という切り口であれば、外から来た人に喜んで利用していただけるようにしていく。今、通年観光と一言で計画上は言っているが、歴史・文化を次に継承していく、担い手不足を解消していくということと、生業を結びつけていきたいと考えているということをご理解いただければと思う。

朝市の件に関しては、今、計画上は取組としては位置付けてはいないが、今ご意見をいただいたので、今後参考としていきたいと思う。

#### 【田中実委員】

通年観光もそうだが、皆さんが中心になって、直江津地区と春日山地区が共同で何か事業できないかというのが私の頭の中にある。

また、妙高市での高級ホテルの建設や、佐渡の世界文化遺産登録など、近隣の自治体と連携がとれないか。連携によって、上越市も付加価値のついた観光、事業ができないかと思っている。

#### 【魅力創造課：井部主任】

妙高市の開発の話や、インバウンドで来られたお客様が、夕食に高田方面へ来るということもあるほか、佐渡については、直江津は佐渡に向けた玄関口となっているので、今、アドバイスいただいたような、上越市の観光がもう少しレベルアップして、拠点となっていけるように、我々も近隣自治体の動き等を注視しながら、連携しながら考えていきたいと思っている。

#### 【磯田会長】

目的の中で、「直江津地域の一体的なエリアマネジメントを担う持続可能なまちづくり組織の立ち上げを目指す」というように、一番大きな目的のところに記載されていて、事業の一つ一つの内容については、ほとんどイベント主体の業務委託のようなどころもある。

持続可能なまちづくり組織というのは、地域自治の観点から、市の中でかなり議論されていて、地域自治推進プロジェクトの中でも、地域協議会が考える場だとすれば、その実行組織としての地域団体、住民組織を構築していかなければいけないのではないかという議論がある。そこに直江津区の一体的なエリアマネジメントを担う組織を立ち上げていくということがきちんと絡んでくるのかどうか。ただ単に商業ベースのマネジメ

ント組織というだけではなくて、地域自治の観点から、地域の人たちを巻き込んだ組織づくりが必要だと考えているので、当協議会とその辺の議論はこれからもさせていただきたいと思っている。今後、この事業が進んでいくプロセスの中で、折に触れて意見交換等をしていただき、そういう組織づくりをどう考えていくのかを含めて議論していただければありがたいと思っている。

**【魅力創造課：藤村副課長】**

まちづくり組織の部分に関しては、ご質問のあった商売ベースの組織なのかということに関しては、そういったところだけではなく、広い目線で取組ができるような組織を目指していきたいと思っている。

実際、今回実験をしてみて、どういった形ができそうかというスキームづくりに関しては、これからになっているので、その状況を見ながら、どういったことが可能なのか検討していきたいと思っている。また、地域の方々とも意見交換をしながら作っていききたいと思っている。

**【磯田会長】**

委員の方々は、いろいろご意見もあろうかと思うが、ここで質疑は閉めさせていただき、また何かあれば、魅力創造課の皆さんと意見交換をさせていただきたい。

－ 魅力創造課 退室 －

**【磯田会長】**

次に、議題【自主的な審議】委員間での意見交換に入りたい。

今日はあいにく人数が少ないが、ある意味では近い距離で、ざっくばらんにいろいろなご意見がいただけるのではないかと思う。本日、出席できなかった方もいるので、次回の会議のときにも、この延長線で少し話をさせていただければありがたいと思う。

今日は、事務局から話すきっかけとなる資料を準備していただいているので、説明いただいてから皆さんの思いをお聞きしていきたいと思う。

**【石崎係長】**

- ・資料No.2 「「地域」について思っていること」に基づき説明

**【磯田会長】**

今説明があったように、地域協議会で話してみたいこと、皆さんが日頃思っているこ



とをこの場で共有しながら、自主的審議に結びつけていけるものはつなげていきたいと思っている。一人1分から1分半ぐらいでお話をいただいて、その後少し意見交換をさせていただきたい。青山委員から順に願います。

#### 【青山委員】

昔から直江津には、「安寿と厨子王」という日本古来の昔話で、全国的に知れ渡っているものがある。通年観光においても、この歴史的な財産をもっといかしてほしい。今ほどの通年観光の話では、観光資源とするような話は一つも出てこなかったが、直江津の皆さんは、親の代やそのさらに昔から、安寿と厨子王の話を知っているのだから、いかしていってもらいたい。

直江津橋のところに安寿と厨子王のレリーフがあるが、半分ぐらいは壊れている。きちんと直して、分かるようにしてもらいたい。

商売としては、安寿と厨子王のお菓子や人形を作って、それをお土産として買ってもらおう。それから、無料で貸してもらえる空き家があれば借りて、安寿と厨子王の記念館のようなものを開いて、全国の皆さんに啓蒙するのがいいのではないかな。

私は、小さいときからそれをずっと頭の中で描いていた。もし駄目なら、自費でもやりたいと思うぐらいであったが、実費で行うのは困難なので、皆さんから協力していただければありがたい。是非話題として取り上げてもらいたいと思う。

#### 【鴨井委員】

先日、仙台へ旅行に行った。仙台というと「ずんだ餅」が有名だと思うが、ずんだ餅だけではなく、「ずんだシェイク」など「ずんだ」に関わるいろいろな食べ物があって、どこへ行ってもそれがある。直江津では、そういうものはあまりないような気がする。

例えば、継続だんごであれば、継続だんごしかないような、それに波及したほかのものがないので、売りになるものがないような気がする。そういうものが、いろいろと増えてくればいいのではないかなと思う。

#### 【関谷委員】

通年観光計画の資料の直江津地域のエリアを見てみると、五智地区の歴史的なものがごっそり抜けているような気がする。

居多ヶ浜や親鸞聖人上陸の地などもあるので、そういったところもきちんと入れ込んでいったほうがいいのではないかなと思う。

先ほど質問すればよかったのだが、うみがたりに来られている年間約30万人の方た

ちに、直江津の次はどこに行きたいか、行くにあたり不便だったことはないか、食事をする場所は困らなかったか等、アンケートや調査のようなことをしているのかお聞きしたかった。

30万人の方がうみがたりに来て、海に入ってそのまま帰られるのではもったいないと思うので、聞き取りを始めなければいけないのではないかと。しているのであれば、どんな回答が得られたのかお聞きしたかった。

#### 【田中実委員】

皆さんと同じ話になると思うが、郷津のほうから、親鸞聖人、安寿と厨子王などの観光名所が結構ある。

うみがたりの次はどこへ行かれるのか、私の知人が50人くらいの観光客に調査した。うみがたりへ寄った後、休むところもない、見るところもないということで、すぐにほかの地へ移動されるということであった。

#### 【保坂委員】

まず地域で関心のあることというと、空き家と人口減と高齢化だが、私が思うには、子どもたちが大人になって一度は外に出て行くけれども、「やっぱり子育てをするには直江津がいいよね。」と戻ってきてもらえるようなまちづくりを目指したいと思っている。

また、うみがたりにキッチンカーが来ていたことがあって、そこにいるお客さんとお話をする、ほとんどの方が「お昼、海鮮を食べたいんだけど、どこがいいですか。」と聞かれる。あそこに海鮮を食べられるお店や、お土産コーナーが常時あれば、特別にイベントをしなくても客が来ると思う。そういうことは考えないのかと思った。

#### 【増田委員】

直江津区には、三八朝市、五智公園、五智の歴史、福島城がある。それらを含めて通年観光として行きたいと思っている。

もう一つは、地震対策について、直江津区は直接津波の被害を受けるので、皆さんと一緒に考えて、改善すべきところは市に改善してもらおうように話をもっていきたいと思う。

#### 【古澤副会長】

先般、町内会長協議会の視察研修旅行で福井県敦賀市へ行ってきた。敦賀市は人口6万人ぐらいだが、直江津より整然としていた。お昼を食べるところが30軒ぐらいまとまっているところがあり、そこに観光バスが停まるようになっていた。そういった大胆

な取組が上越市にもあってしかるべきではないかと思っている。今、西本町にお寿司屋さんが何件かあるが、個別ではなくて、直江津の美味しいものを屋台会館あたりにドーンと持ってくる、土産物屋さんをドーンと持ってくる。そうすればうみがたり周辺も発展するのではないかと思った。

#### 【田中美佳副会長】

私は、今まで地域協議会で自主的審議事項として取り組んできた福島城や三八朝市、屋台会館、五智公園、そして防災のこと等に取り組んでいきたいと思う。

今までも市から話を聞くなど取り組んできたが、なかなかこれというアイデアにまでは至っていないところだが、いい方向に進めていければと思う。

#### 【今川委員】

私は環境に一番興味があり、今までも海岸や道路の危険個所を行政に連絡して直してもらってきた。また、直江津駅周辺の環境整備もずっとやってきた。最近町内の仕事が増えてしまい、なかなかできていないが、少し涼しくなったらやろうかと思っている。

どうしたら直江津が外から来たお客さんによく見てもらえるのかと考えているし、直江津駅前のトイレについても、新しく直してほしいと思っている。

#### 【磯田会長】

課題はいっぱいあって、見方が違えば違う解決の仕方もあると思うが、それをいかにいろいろな人の意見を拾い上げて、オーソライズしていきながら、行政と一緒に作り上げ、実際に動いていくような形にならないかと考えながら活動をしてきた。

今回の通年観光もそうだが、のれんに腕押しのようなところもあるし、協議会の中で議論してきたことが、なかなかストレートに伝わっていかないところもあるが、議論や話し合いをしていかないと埋まっていけないところだと思うので、いかにそういう話ができるかというところに注力していきたいと思っている。

では、これからはフリートークで、皆さんからご発言いただいたことについて、15分間ぐらいご意見をいただいて、意見交換を終わりたいと思う。

#### 【関谷委員】

食事の場所についての個人的な意見である。

新しい水族館ができるときに、大きいレストランを接続して、水族館の大水槽を見ながら食事ができて、日本海の荒波も見てもらえる。そういったものがあればいいと思っ

ていた。今更大きい回遊槽を見ながら食事をするようにはできないかもしれないが、小さくてもそんなところを見ながら、みんなが食事をできる場所があればいいと思った。

先ほども話が出たように、皆さん食べる場所がないとおっしゃる。うみがたりに来られた方がどこかへ行ってしまうのはもったいないので、一年を通じて、魚を見ながら、海を見ながら食事ができ、恋人たちが来られるような、若い人たちが行きたいと思うようなものを是非作ってもらいたいと思う。

#### 【磯田会長】

我々昔のジャンボマリン水槽を知っている人たちにとっては、今の水族館は一つ一つの場所のつながりはそれなりに分かるが、わくわくするような空間がないというところがある。

それから、屋台会館のところについては、直江津の人たちは、あそこに食堂とお土産物屋があるといいと再三ずっと言っているのだが、市はそれをしないし取り組んでいかないわけである。今回の通年観光計画もイベント主体のようになってきている。

直江津のまちなかでは、水族館に来た人にクーポンを出して、まちなかに誘導することを開館当初からずっとやってはいるが、それ以上のまちなか誘導策はなく、結局はそのクーポンだけになっている。不公平がないようにと、ロードサイドのお店もクーポンの対象に入っているため、みんな車でそちらに行ってしまう。少しお客さんが来ているまちなかのお店もあるが、すべての町の人たちにというところまではいっていないというところが課題である

#### 【増田委員】

水族館が作られたときに、地域協議会にも報告があり、その時に私たちからいくつも意見を述べさせていただいた。屋上にレストランを作って、夜、海を見ながら食事をするという構想も出したが、実現しなかった。設計者と私たちが直接話をする機会はなく、結果として現在のレストランになっている。

この他にも、雨が降ったときや夏の日、子どもや高齢者が歩くことを考えると、駐車場が遠い。雁木を付けるのはどうかという話もした。当時は仕方がないのでとりあえずスタートさせようと思ったが、これから地域協議会として、改善に向けた意見をまとめて市に伝えていければいいと思う。屋台会館での観光物産センターの構想も地域協議会としてまとめて、具体的な提案とともに、行政と向き合っていけたらいいのではないか。

**【田中美佳副会長】**

意見を伝えてもなかなか実現までには難しいことが多いが、議論して行政に意見を伝えていき、少しでも変わればとてもいいことではないかと思いながらやっている。皆さんのたくさんのご意見とアイデアと知恵をもらって、みんなで話し合いながら、一つ一つ少しでも変わっていくといいと思っている。

**【保坂委員】**

私は、前の水族館でバイトをしたことがある。閉館前に大水槽の前で食事会をしたが、すごく感動した。現在の水族館にレストランが入っているが、メニューはパスタなど、どこでも食べられるものである。水族館に来る人は海鮮関係を求めて来ているので、そういったところを改善点として伝えていって、より良いものにしていく。今、一番いい課題ではないかと聞いていて思った。

**【磯田会長】**

意見の上げ方として、単発で伝えてもあまり届かない。協議会としてある程度意見を集約していきながら、束になって伝えていかないと突破できない。それには市民の人たちの後押しや、賛同がないと、市にも説得力ある意見として伝わらない。地域協議会の意見だけで動く場合もあるのかもしれないが、周りの市民も納得していて、協力もしてくれるような案を、タイムリーに提言していくというところが必要ではないかと思っている。

先ほど、青山委員から安寿と厨子王の話があったが、過去に地域活動支援事業を活用して「三八朝市周辺まちづくり協議会」が、安寿と厨子王の物語の紙芝居を作ったり、直江津橋のレリーフの拓本を取ったり、小学校の子どもたちに出前講座をしたりという活動を行った経緯がある。

**【青山委員】**

知らなかったもので申し訳ない。私は商売をやっているので、商人さんも潤って、市民の方も自慢になるような、何か目玉として、昔からあるものをもう一度発見して、発展させるようなことをぜひお願いしたい。

**【磯田会長】**

他に意見はあるか。

**【保坂委員】**

今ほど、磯田会長から、市民の後押しという話があったが、水族館に来た方にアンケート

一ト等を独自で取れるのか。

**【磯田会長】**

やろうと思えばできる。

**【保坂委員】**

バックデータになるので一つの手だと思った。

**【磯田会長】**

我々が主体的にやろうと思えばできると思うし、次の地域独自の予算事業のときに、どこかの団体とタイアップしながら事業化していくといったことも可能だと思う。どんどん会議の中でいい意見を出していただければと思う。

**【増田委員】**

皆さんが自主的審議事項を考えるのではなくて、自主的審議事項につながる課題は住民の皆さんがいっぱい持っている。住民の皆さんと地域協議会がいろいろな場面で話をすることは、住民の皆さんに地域協議会を知っていただく機会になるとともに、住民の皆さんが考えていることを私たちが聞かせていただく場面にもなるので、以前も何回かやっていたが、これからも住民の皆さんの意見を聞く会や、市民団体の意見を聞く会、町内会長さんとの意見交換会を積極的にやっていきたい。その中で、福島城の問題や五智公園の問題も、町内会長さんから上がってくるだろうし、住民の方からは、交通手段の問題や、買い物をするところがないといった問題も上がってくると思うので、そういう場を地域協議会としても一生懸命設けていきたいと思っている。

地域協議会の開催は月 1 回とは決まっておらず、必要の都度、会長が招集するものである。必要とあれば会長が複数回の開催を皆さんに提案して、賛同いただければできるので、皆さんの力をいただきながら地域協議会として力を出していけたらと思う。

**【磯田会長】**

地域活動支援事業が始まってから、いろいろな団体が活動してきたが、皆さんそれぞれ高齢化と担い手不足で、活動が思うようにいかない状況に陥っている。

活動団体がいなくなると、先ほどのお宝のようなものがどんどん埋もれていってしまう。そういったところも、地域協議会が注力して、団体の担い手がいなくなれば、それを担ってもらえるような団体を新たに作ったり、有志でそういうことをやっていくなど、何らかの対策をしていかないと、世代交代が難しい局面にきているのが現実ではないかと思う。その辺も含めて、今後議論をしていければと思う。

今日は、有意義なお話が皆さんとできたのではないかと考えている。

次に、「その他」について、私から2点報告させていただく。

1点目は、8月1日に上越市全区の地域協議会の正副会長を集めた会議があり、ファシリテーションの勉強会と意見交換会が行われた。私は、ファシリテーション研修は出席できなかったが、意見交換会から参加させてもらった。1時間弱しかなかったが、地域自治推進プロジェクトの進捗等について話があった。

私からは、昨年度アンケートを書いた後、何も音沙汰なしで、今になって意見集約されたものが示されたので、もう少しタイムリーに意見交換の場を作ってほしいとお願いをしてきた。

2点目は、前回協議会で出された田中実委員から直江津プライド2021への質問の件について。

この件は、田中実委員から私が代表を務める団体に質問書をいただいて、回答を書面でお返ししてお話をさせていただいた。田中実委員といち団体との話であることから、個別のやり取りとさせていただくことを報告させていただく。

・次回協議会：9月17日（火）午後6時30分から

ほかに意見等はあるか。

#### 【田中実委員】

事務局にお聞きしたい。「地域自治の理想的な姿等に係るアンケート」を提出したが、皆さんで取りまとめるのか、本庁へ全部行ってしまうのか。直江津区地域協議会委員の方たちのお考えを参考にしたいと思ったが、区ごとのまとめはされるのか。

#### 【石崎係長】

皆さんからご提出いただいたアンケートについては、地域政策課ですべて取りまとめをして分析していく形になる。今の時点では、区ごとの取りまとめや分析をするという話は聞いていない。

#### 【増田委員】

アンケートは北部まちづくりセンター所長の名前で依頼が来ているが、中身は全区同様であるし、活動団体への依頼も全区同様である。全区一律の依頼であれば、本来は市長か副市長か部長名で出すべきものであると思うので、担当課に話をしてほしい。

集計の仕方についても、アンケートに基づいて地域協議会や地域独自の予算事業を検討するためには、地域ごとの集計が必要ということと、何期も経験した人の回答と、今

年初めて委員になった人の回答は中身が違うので、その違いが分かるように、集計も別々にするというようなことが必要だと思う。

地域独自の予算事業のときは、地域協議会に相談なしに決まったので非常に不平不満があった。今回は制度を全体的に検討すると言っているので、地域協議会にしっかりと説明し、団体の皆さんにもしっかりと説明したうえで、アンケートをいかしていただくということが必要だと思う。一緒にいい方向に持っていきたいと思うのでよろしく願います。

#### 【磯田会長】

- ・会議の閉会を宣言

#### 9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

#### 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。